



9.

大隈

1285



114  
A2644



第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始

マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ関スル

事務ハ翌年度九月三十日ヲテニ悉皆完結ス

ハシ

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

第二條

租税及其他一切ノ收納ヲ歲入トシ

一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ

編入スハシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額  
ヲ以テ他ノ年度ニ屬スルキ經費ニ充ルコト  
ヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定  
シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出、總豫算ハ前年ノ帝國議會  
集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スルニ

第六條

歳入歳出、總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ

二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分

スハシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ為左ノ文書ヲ

添附スハシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但各項中各

目ノ明細ヲ記入スハシ

第二 其年三月三十一日ニ終リタル會計

年度ノ歳入歳出現計書

第七條

三分ツ

豫算中ニ設クハキ豫備費ハ左ノ二項

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クハカラサル豫算ノ不足ヲ

補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必用ノ費用

ニ充ツルモノトス



第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度

經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムル

ヲ要ス

第九條 每年度大藏省證券發行、最高額ハ帝  
國議會ノ承諾ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租税及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規

程ニ従ヒ之ヲ徴収スヘシ

法律命令ニヨリ當該官吏ノ資格アルモノニ

非サレハ租税ヲ徴収シ又ハ其他ノ歳入ヲ

收納スルヲ得ス

第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充  
ル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支  
辨スベシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ  
外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此  
流用スルコトヲ得ス  
國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ハ之ヲ國  
庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ法律勅令ヲ以テ許可セ  
ラレタル場合ヲ除ク外一年度以外ニ涉リ政  
府ノ義務トナルハキ契約ヲナスコトヲ得ス

第十四條 國務大臣其ノ所管定額ヲ使用スル  
為國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但別  
ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シ  
テ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十五條 國庫、法律命令ニ及スル仕拂命令  
ニ對シテ仕拂ヲナスコトヲ得ス



第十六條

國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債

主者ノ其ノ代理人ノ為ニスルニ非サレハ

仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

尤ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官

吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任

シテ現金支拂ヲ為サシムル為ニ現金前渡ノ

仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕辨ヲナ  
ス經費

又經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ  
於テ仕辨ヲナス經費

於テ仕辨ヲナス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一ケ年ノ總費  
額五百圓ニ滿タサルモノ

額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ  
經費但一主任官ニ付三千圓マテヲ  
限ル

限ル

### 第五章 決算

第十七條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ

帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一

ノ様式ヲ用ヒ尤ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

収入済歳入額

収入未済歳入額

歳出ノ部

歲出豫算額  
豫算決定後增加歲出額  
仕拂命令濟歲出額  
翌年度へ繰越額

第十八條 前條、總決算ニハ會計検査院、檢  
査報告ト俱ニ九、支書ヲ添附スルニ  
第一 各省決算報告書  
第二 國債計算書  
第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十九條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ  
年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請  
求若クハ仕拂ノ請求ヲナサ、ルモ、ハ期滿  
免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス  
但特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メ  
タルモ、ハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第二十條

政府ニ納ムハキ金額ニシテ其ノ納

ムハキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知

ヲ受ケザルモ、其ノ義務ヲ免カル、モ、

トス但特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ

定メタルモ、各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章

歳計割餘定額繰越豫算外収入  
及定額戻入

第二十一条

各年度に於て歳計に剩餘アルト  
其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十二條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ  
及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニ  
シテ避クヘカラル事故ノ為ニ事業ヲ違  
越シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ノ終ラサ  
リレモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スル  
コトヲ得

第二十三條 数年ヲ期シテ竣功スヘキ工事  
製造及其他ノ事業ニシテ繼續費トシテ  
總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額  
ヲ竣功豫算年度ノ翌年マテ遞次繰越  
使用スルコトヲ得



第二十四條

誤拂過渡トナリタル金額、返納

出納、完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ  
他一切豫算外、收入ニ總テ現年度ノ歳入ニ  
組入ルヘシ但法律命令ニ依リ前金渡概算渡  
繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ各  
之ヲ仕拂ヒタル経費、定額ニ戻入ル、コト  
ヲ得

第八章

政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十五條 法律ヲ以テ定メタル場合ノ外政

府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ總テ公告シ

テ競争ニ付スヘシ但尤ノ場合ニ於テハ競争

ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品

ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所為ヲ秘密ニスヘキ場合ニ

於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸

借ヲナストキ

第三

非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入  
借入ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキ  
トキ

第四

特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的  
ルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産  
者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ  
要スルトキ

第五

特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ  
製造ニ得ヘカクサル製造品及

第六

機械ヲ買入ル、トキ  
土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ為スニ  
当リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場  
合

第七

五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ  
買入借入ノ契約ヲ為ストキ

第八

見積價格ニ百圓ヲ超エサル動産ヲ  
賣拂フトキ

第九

軍艦ヲ買入ル、トキ

第十

軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一

試験ノ為ニ工作製造ヲ命シ  
又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二

慈善ノ為ニ設立セル教育所  
貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製  
造物品ノ直接ニ買入ル、トキ

第十三

囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物  
品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政  
府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直  
接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入  
ル、トキ

第十四

政府ノ設立シタル農工業場又ハ  
慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造  
物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フ

トキ

第二十六條

軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造

又ハ物件買入ノ為ニ前金拂ヲテスコトヲ得

ス

第九章 會計官吏

第二十七條

政府ニ属スル現金若クハ物品ノ

出納ヲ掌ルトコロノ官吏ハ其ノ現金若クハ

物品ニ就キ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ

検査判決ヲ受クヘシ

第二十八條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他  
ノ事故ニ依リ其ノ保管スル所ノ現金若クハ  
物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保  
管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院  
ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非ハレ  
ハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、エトヲ得ス

第二十九條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ就  
キ身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモ  
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ



第三十條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務  
ト相兼スルコトヲ得ス

第三十一條

歳入ノ徴収若クハ経費ノ支出

掌ルトコロノ官吏ハ其ノ取扱フトコロノ事  
務ニ就キ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ  
査判決ヲ受クヘシ其ノ故意又ハ不注意ニ由  
リ政府ノ損失ヲ生シタルトキハ總テ其ノ  
額辨償ノ責ヲ負フヘシ

第十章 雜則

第三十二條 普通ノ會計規程ニ準據スヘカラ

サル必要アルモハ特別會計ヲ設置スルコ

トヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律又ハ勅令ヲ以テ

之ヲ定ムヘシ

第三十三條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行  
ニ命スルコトヲ得

第十一章

附則

第三十四條

本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサ

ルモノハ明治二十二年四月一日ヨリ施行シ

其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ

施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル

年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十五條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各  
其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス



